

# 1 小学校国語科の授業改善・充実のポイント

## (1) 調査結果からみた課題

### ① 小学校国語科の結果概要

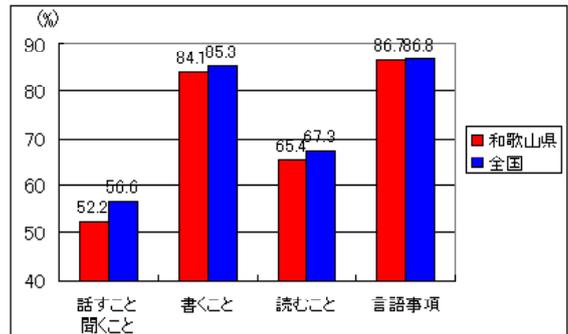
#### ■国語A

(主として「知識」に関する問題)

◇本県の小学第6学年の平均正答率は81.1% (全国平均 81.7%) です。

◇相当数の児童が今回出題している学習内容を概ね身に付けていると考えられます。

◆「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題があります。



#### 【話すこと・聞くこと】

- ◆インタビューのメモの工夫を選択する問題は、正答率が50%台です。話し方に関する知識や聞き方に関する知識の理解に課題があります。
- ◆スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する問題は、正答率が50%以下です。

#### 【読むこと】

- ◆物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する問題は、正答率が60%台です。物語の登場人物の関係を押さえて心情を把握することに課題があります。

#### 【言語事項】

- ◆漢字の書きについては正答率にばらつきがあり、特に書き「相談」の正答率が50%台です。
- ◆文の構成を理解し、1文を2文に書き換える問題の正答率は50%台です。

#### ■国語B

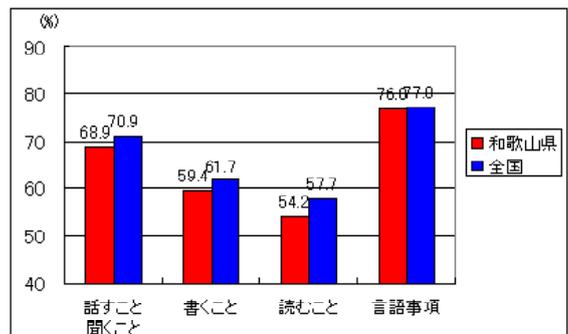
(主として「活用」に関する問題)

◆本県の小学第6学年の平均正答率は59.0% (全国平均62.0%) です。

◆知識・技能を活用する力に課題があります。

◆記述式問題の平均無解答率(無答率)は、12.5% (全国平均10.4%) です。

◆「書くこと」「読むこと」に課題があります。



#### 【書くこと】

- ◆古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く問題の正答率は、40%台です。取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約することに課題があります。
- ◆古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く問題の正答率は50%以下、無解答率(無答率)は約14%です。情報の中から必要な事柄を取り出して、目的や条件に応じて書き換えることに課題があります。

#### 【読むこと】

- ◆グラフを読み取り、文章中の空欄に適切な数字をあてはめる問題の正答率は、60%以下です。文章の内容と資料の数値などとの関係付けて正しく読むことに課題があります。
- ◆同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを二つ書く問題の正答率は、ともに50%以下です。二つの文章の良さや工夫を評価し、自分の考えをまとめることに課題があります。

◇…相当数の児童ができている点      ◆…課題のある点



## 課題のあった問題

## 2 二 事実が取り上げられた理由を要約する

正答率 県 44.1% (全国 45.4%)  
無解答率(無答率) 県 4.6% (全国 4.0%)

2 川本さんの学級では、ごみを減らす取り組みの一つとして、身近な紙の問題を調べ、新聞にまとめて書くことにしました。そこで、紙についての資料を集めました。次の資料を読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】

1 家庭や地域などから毎日のようにさまざまなごみが出されます。ごみの量をこれ以上増やさないようにするために、わたしたちに何ができるでしょうか。また、資源として大切に使うために、どのようなことができるでしょうか。身近な紙の問題を例として考えてみましょう。

2 紙は、わたしたちのくらしの中でなくてはならないものであると同時に、産業や文化を支える大事な働きをしています。トイレットペーパーやティッシュペーパーなどは、生活用品として、また、新聞や雑誌、本などは、情報と知識を伝えるものとして、はば広く使われています。

3 一般に紙は、「紙」と「板紙(厚手の紙のこと)」に区分されます。新聞、雑誌、印刷用紙、コピー用紙、ノート、ティッシュペーパーなどは、「紙」に区分されます。段ボールや紙箱用のボール紙などは、「板紙」に区分されます。

4 日本の紙と板紙の生産量は、二〇〇二年(平成十四年)には、世界第ア位となっています。そのほとんどは国内で消費されています。

5 社会や経済の発展とともに、紙はより多くの分野で使われるようになり、新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきました。そこで、一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました。紙の

原料である森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることがないようにする必要があります。

6 古紙には、新聞紙、雑誌、段ボール、紙パックなど、いくつもの種類があります。中でも、新聞紙、雑誌、段ボールの三種類が、古紙の大部分をしめています。

7 古紙の再生の方法としては、同じ種類の紙に生まれ変わることが多くなっています。段ボールの古紙は段ボールに、新聞紙の古紙は新聞紙になります。そのため、同じ種類の古紙はひもでくくり、まとめて回収に出すことが大事です。また、水にぬれていると再生しにくくなったり、金属が付いていると手間がかかってしまったりします。回収に出すときに少し気をつけることで、古紙の再生に役立つことになるのです。

8 このように、わたしたちの身近なところから古紙の再生利用を進めていくことは重要です。古紙を使って紙を生産し、古紙からできた紙をさらに再生利用することで紙のごみを減らし、資源を有効に活用することができます。わたしたちの身近なところからごみを減らすことを考えて、取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。(ルビは省略)

二 資料1の第5段落に、「一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました」と書いてありますが、なぜ、重要な課題となってきたのですか。その理由を本文中から探して、二つ書きましょう。

### 【出題の趣旨】

取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約することができるかどうかをみる。

### 【誤答分析と課題】

本設問は、前提となっている現状を要約し、理由として記述するものです。正答は、①「新しく木から作り出す紙だけでは不足してきた」、②「紙の原料である森林を守るため」という2つの理由を要約することです。

誤答は、「森林を守る」のみを解答したもの、「作り出す紙の不足」のみを解答したものなど、正答となる2つの理由のうち、1つしか満たしていない解答が多くみられました。理由となる事実をとらえ、要約することに課題があることが分かります。

### 【指導のポイント】

筆者の主張や整理した事柄が、どのような理由や根拠によって論証されているかをとらえるためには、前後の文脈を押さえるだけではなく、段落と段落の相互関係や文章全体の構成などを踏まえて要約する指導が必要です。

課題のあった問題 ③ (1) (2) 二つの文章を比べて評価する

	正答率	無解答率（無答率）
(1) 県	49.1% (全国 55.9%)	15.8% (全国 13.2%)
(2) 県	49.4% (全国 54.9%)	21.1% (全国 17.5%)

先生は、この二人の感想文はどちらも良い書き方だとみんなにしようかと思いました。二人に共通する良い書き方とは、どのようなことですか。二つ書きましよう。

<高橋さんが書いた感想文>

わたしは、「相手のきげんをとったり、合わせたリするのは、本当の友達とはいえない。」という主人公あゆみの言葉をうまく受け入れられません。この本を読んで、人と人がつながることのむずかしさを改めて考えました。

あゆみは、親友とうまくいけなくなると、今までとはちがう見方をしました。少しずつはなれていく関係になやみながらも、新しく友達との関係をつくることができました。いつまでも考えこまず、気持ちを切りかえるようにしたのです。あゆみは自分にとって本当の友達とは何かということの答えを見つけたのです。

わたしも、あゆみと同じような体験をしたことがあるのですが、うまくいきませんでした。広く人とかかわり、新しく友達を見つけていくことは大事です。だからといって、すぐに気持ちを切りかえるのはかんたんではありません。これからも、人と人のつながりについて、考えていきたいと思っています。

<青木さんが書いた感想文>

主人公あゆみの印象的な言葉。「いつもそばにいていっしょに行動することだけが友達じゃない。ときにはさよりを置き、友達を見守ることが大切だ。」わたしは、この本を読んで、はげまされ、勇気をもらいました。

あゆみは、親友とささいなことでもけんかをします。少しずつ二人の心ははなれてしまい、落ちこんでいきます。そんなとき、全く気が合わないこと決めていた別の友達が、「気にしすぎだよ。そのうち、仲良くなれるよ。」と声をかけてきました。話すことが少なかった友達が、声をかけてくれたことで、あゆみは元気づけられ、前向きな気持ちになれたのでした。

わたしは、この本と出会ってから、いろいろな人と広くかかわることができるようになりました。少しのけんかは気にせずに、できるだけ多くの友達をつくらうと思います。この本に出会うことができ、本当によかったです。

③ 中川さんの学級では、夏休みに読んだ本の中で心に残ったものを感想文に書き、図書新聞にのせることにしました。先生が、感想文の書き方の勉強になるように二人の感想文をしようかと思いました。同じ本について書いた二人の感想文を読んで、あとの問いに答えましよう。

【出題の趣旨】

二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめることができるかどうかをみる。

【誤答分析と課題】

この設問は、児童が書いた2つの文章を比べて読み、書き方の良さや工夫を評価するものです。正答は、①「感想や意見、決意が明確であること」、②「引用や要約をしていること」、③「段落構成や言葉の使い方を工夫していること」などを満たして解答しているものです。

誤答には、「しっかり書けている」のように抽象的に評価したり、2つの感想文に対する自分の感想を記述したりするなど、求められた条件に依拠していない解答がありました。また、無解答率が15.8%、21.1%であることから、**読書感想文に必要な要素を押さえ、二人に共通する書き方の良いところを的確に把握し、評価することに課題がある**ことが分かります。

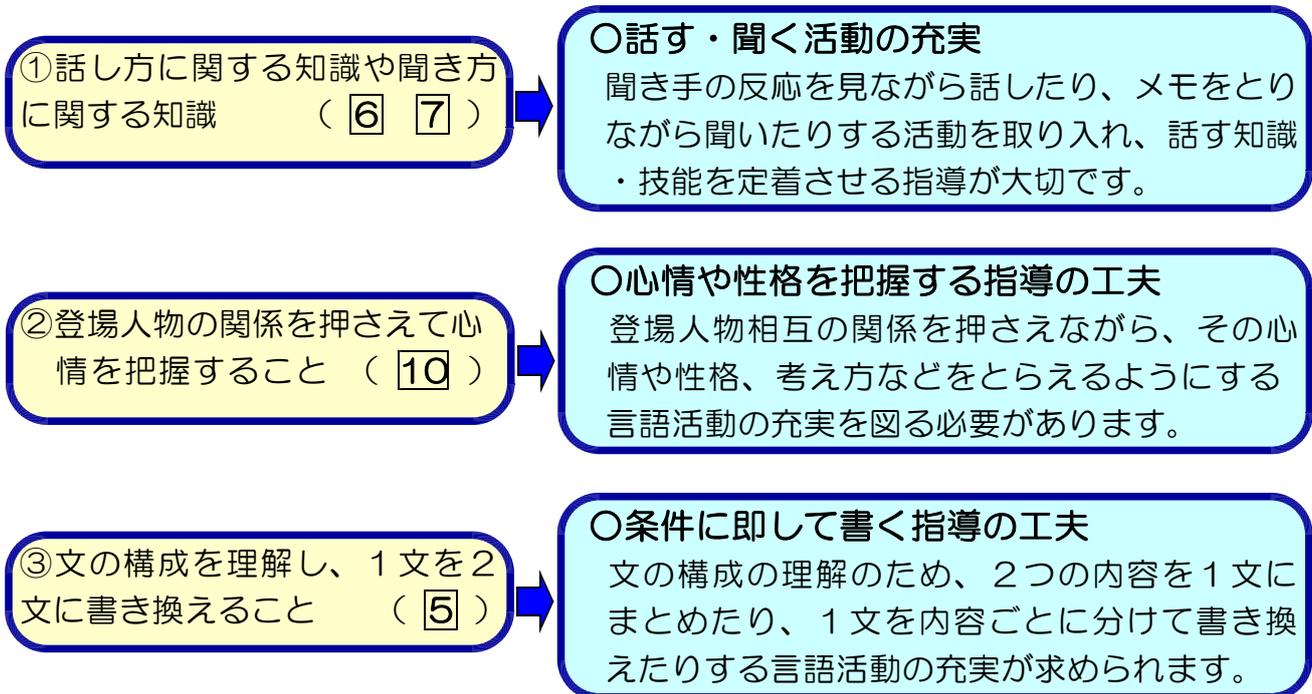
【指導のポイント】

**複数の文章や資料を取り上げ、観点を設定して比べて読む言語活動を充実することが大切です。観点に沿って大事なことを取り出し、気付いたことや考えたことを簡潔にまとめるなどの指導が必要です。**

## (2) 指導方法の改善・充実のポイント

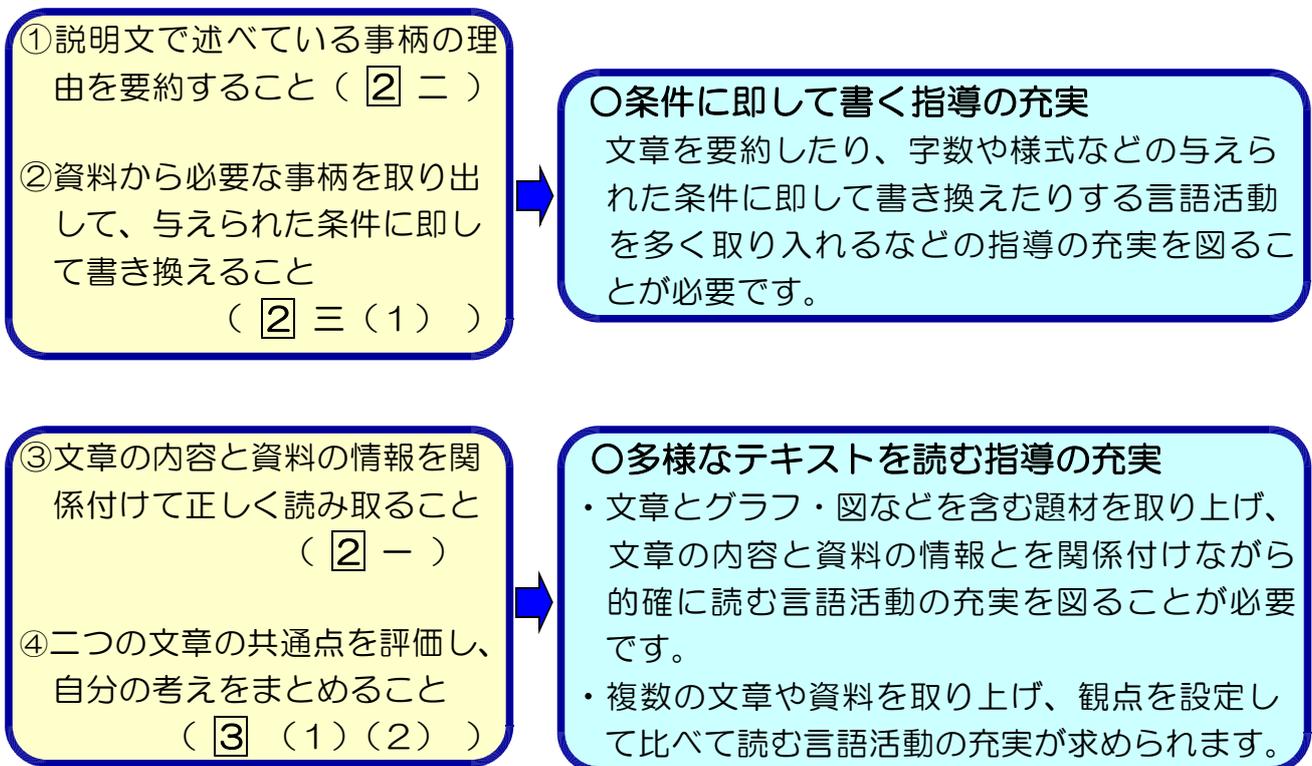
### ■国語A

### 指導改善のポイント



### ■国語B

知識や技能を活用する力、記述式問題に課題があります！



( ) は問題の番号を表します。

## 課題が明らかになった知識や技能を活用する力

- 説明文で述べている事柄の理由を要約する力
- 資料から必要な事柄を取り出して、与えられた条件に即して書き換える力
- 文章の内容と資料の情報を関係付けて正しく読み取る力
- 二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめる力

これらは、PISA型「読解力」と大きく重なると考え、本県では、PISA型「読解力」育成のための取組を進めています。年度末に「PISA型読解力向上のための実践指導資料集」（仮称）を各学校に配付する予定です。

## ◆ ◆ PISA型「読解力」育成のための指導改善の視点 ◆ ◆

- ① 教科書教材の精読
- ② 教師主導の一斉授業
- ③ 教師と子どもの一問一答
- ④ 憶測による心情や内容の理解
- ⑤ 教材の無批判な受容
- ⑥ 体験と感想を基にした表現



- ① 多様な文字資料の活用
- ② 子ども主導の協同学習
- ③ 子ども同士の討論
- ④ 推論による表現意図の解釈
- ⑤ 教材の評価と批判
- ⑥ 読解を根拠にした表現

国立教育政策研究所 有元秀文総括研究官による

## 具体的アプローチ1 授業を変えるには、まず発問から！

- 子どもの興味・関心を引きつける問い
- 何を答えたらよいかが大げさにもわかる明確な問い
- 教材の本質の理解にせまる問い
- 全体を読まなければ答えられない大げさな問い
- 教材文に必ず根拠がある問い
- 個性や創造性を発揮した多様な答えを求める問い

《 発問の具体例 》（第4学年「ごんぎつね」を扱う場合）

例1 「ごんはうなぎを取ったつぐないにどんなことをしましたか。また、それを兵十はどう思っていましたか。」 【情報の取り出し】

例2 「兵十はなぜ『ひなわじゅうをばたりと取り落としました』のですか。」 【解釈】

例3 「ごんが死んでしまう終わり方に賛成ですか、反対ですか。それはなぜですか。」 【熟考・評価】

## 具体的アプローチ2 根拠を明確にして書き、話し合うことを！

児童が話し合い、課題を解決していく時間を十分に確保することが大事です。そのためには、ワークシートを利用したグループ学習を導入することが有効です。

ワークシート作成にあたっての注意点

- ・ はじめに課題に対する考えを書き、次にその根拠を書くようにする。
- ・ 根拠は、必ず教材本文からあげるようにする。

考えをワークシートに書くことで、発表も根拠を明確にした論理的なものになります。グループ討議でまとまったことを全体の場で交流すれば、さらに深まりが期待できます。こうして深まったものが、再び個人にフィードバックされるような授業展開が大切です。

個人 → グループ → 全体 → 個人

## 具体的アプローチ3 読書活動の充実を！



【学校質問紙】「第6学年の児童に対して、『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けていますか」に「はい」と答えた学校の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向がみられます。

日常生活における読書活動につながる意図的・計画的な「読むこと」の学習を通して、進んで読書に親しむ態度を育てることが大切です。